

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



新春を迎えた神苑

(1月4日 撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教177年
1月号



立教百七十七年
明けましておめでとうございませう

昨年一年誠に有難うございました。一昨年の諭達第三号の御発布を受けて、年頭より諭達巡教を実施させて頂き、諭達と共に三年千日と仕切つての大教会の一年目の成人目標の徹底を計らせて頂き実働に掛からせて頂きました。処、二月に千二百枚余りから始まったおたすけ・お願いカードが月毎に増え、十二月には二万五千枚余りにまで増える等着実に成人の動きが広がって来たように思います。皆さんの一手一つの心遣いにお礼申し上げます。

さて二年目の今年は、更に成人の歩みを進めるべく、助かりを願うだけでなく助けの実践に取り組んで行きたいと思ひます。教会毎に毎月おさづけの取り次ぎ回数やにをいがけ件数を心定めして、教会に繋がる皆で実行をさせて頂き、加えて三月から六月にかけて開催される「ようぼくの集い」にお互いに声を掛け合つて参加させて頂き、昨年より成人した姿を親神様・教祖にご覧頂いてお喜び頂きたいと存じます。

笠岡大教会長
上原理一

<実行目標>人のたすかりを願ひましよう



おたすけ・お願いカード 集計：25, 235枚

平成25年11月21日～12月20日

平成25年累計：133, 738枚



立教177年

各部会の抱負

及び

年間行事予定

教祖百三十年祭二年千日
年祭活動推進委員会

笠岡大教会では、教祖百三十年祭へ向かう三年千日、年祭活動のローガンを

さあ、おたすけ！

祈る、動く、つなぐ

と定めさせて頂いております。昨年はその年祭活動一年目を、歩み出しの年として「祈る——人のたすかりを願います」。「動く——一日一つのきしん」「つなぐ——進んで声を掛けましょう」という実行目標が達成できるよう、具体的な活動例が列記された成人目標を活用した歩みを進めさせて頂きました。

この成人目標は、教会、家庭、個人で取り組めるよう笠岡独自に作成したものです。教会に一枚、家庭に一枚ではありません。一人に一枚です。自分の成人目標です。

今年の成人目標は、今年一年の活動目標を記入

して頂く欄を新たに追加致しました。具体的な活動例の中から、或いはそれ以外でも結構ですので、自分自身で一年を通しての取り組みを定めて下さい。誰が見ていなくても親神様、教祖をご覧下さっています。

特に教会長は自身の実践はもちろんですが、教会に繋がるよふぼく信者が取り組めるよう、教会から家庭へ積極的に声掛けを行い、家庭に於いては家族ぐるみで実践できるように声掛け、働きかけることを行って下さい。それが、教会から家庭、個人へのつなぎになるのです。

その一つの具体的な活動として「おたすけお願いカード」に取り組んできました。月を重ねることにお願ひ件数も増加し、人のたすかりを願う人が増えてきておりますが、全よふぼく信者という上からはまだまだ声が届いておりません。陽気ぐらしの原点は人のたすかりを願う心からです。二年目も引き続き取り組ませて頂きますので、教会で新たに取り組む人が増えるよう、教会で、家庭での声掛けをお願いします。

本年は年祭活動二年目の年を迎えました。一年目の歩みを継続させ、新たな歩みを重ねることが出来るよう、この二年目を「積み重ねの年」として歩ませて頂きます。

その実行目標を「祈る——教会で毎月 回

おさづけ取り次ぎ」「動く——毎月 件にをい
がけ『毎月23日は笠岡にをいがけデー』」「つなぐ
——教えを学び信仰の楽しみを身に付けよう」と
定めさせて頂きました。どれも自分の心一つで実
行できる項目です。

「教会で毎月 回おさづけ取り次ぎ」
では、各教会で毎月の目標取り次ぎ回数を定めて
いただきます。また家庭、個人も同様に、毎月の
目標取り次ぎ回数を定め、 内に記入して頂
きます。教会へつながるよふぼく一人ひとりにお
さづけの取り次ぎを促し、教会挙げて目標回数を
目指して努めさせていただきます。

諭達に「おたすけは周囲に心を配ることから始
まる」とお示し頂きます。真柱様は秋の大祭で、
「自分の無関心のゆえに、苦しんでいる人の存在
を見過ごしてしまつては申し訳ないことだと思
います。身上や事情で苦しむ人のあることに気づ
いたならば、親神様にご守護をお願いすることから
でも出来るでしょう。また、見るもいんねん、聞
くもいんねん(明治23・9・27)といううえからは、
人ごととは思わず、わが事と受け取ることも大切
であります」とお述べ下さっています。

それぞれが目標に向かって、更には常におさづ
け取り次ぎを意識して通る一年としたいと思いま
す。

更には、一年間お願いカードを通してたすかりを願った方々に、おさづけが取り次げるよう努力することも大変大切なことです。

「毎月 件にをいがけ

『毎月23日は笠岡にをいがけデー』

では、毎月23日を笠岡大教会としての『にをいがけデー』と定めさせていただきます。毎月23日には、国々所々の笠岡につながる全ての教会を拠点とした、にをいがけ活動の展開を推進いたします。時間などは各教会で決めてください。なおおさづけ取り次ぎ同様、教会で一ヶ月の目標件数を定めてください。

件数は、戸別訪問やパンフレット配布に限りません。ひのきしんや知人への一言も大きなにをいがけです。成人目標の活動例をご参照下さい。

「教えを学び信仰の楽しみを身に付けよう」

では、各自が信仰の楽しみを身に付けられるよう努力しましょう。真柱様は、「長い道中には、時には不条理としか思えないような災難や苦しい出来事に出合うことがあるが、それも人々の胸の掃除を急ぎ、何とか助けてやりたいとの親心からのことであるから、そこに込められた思召をしっかり受け止め、思召に沿う通り方を心がけてほしい」とお述べ下さっています。思召を受け止め、

思召に沿う通り方が出来るようになるには、教えを学ぶことが不可欠です。教えを学ぶ中に信仰の楽しみ喜びが身に付いてきます。まずは、身近な事の中に、数え切れない喜びがあることを知ることが大切です。一日に1つは喜びを探してみましよう。その喜びを家族に伝えていくことが信仰の伝承、即ち縦の伝道になるのです。また、定期刊行物など身近な書物を通して教えを学ぶことも大切です。

本年も年祭活動の上にご尽力と、教会へ繋がるよふぼく信者へのご丹精をよろしくお願い致します。

◎関連行事

1. 笠岡にをいがけデー統一活動日

日 時 9月23日(火・祝)

※笠岡として統一した活動を予定しています。詳細につきましては、後日ご連絡致します。

2. 若人のつどい

日 時 11月23日(日・祝)

場 所 笠岡大教会

※詳細につきましては、順次お知らせします。

布 教 部

真柱様は昨年の年頭あいさつの席上、諭達に込める思いを「毎日の暮らしの中で心がける、身近なところからささやかなことでも、日頃から心がけることをしてもらいたい。年祭へ向かっておたすけの活動に励もうというのがその中心であったのであります」とお話し下さいました。正しく笠岡の年祭活動の後押しをして下さったように思います。私たちが大教会よりお打ち出し頂く年祭活動に沿って歩みを進めることは間違いのない、教祖にお喜び頂ける歩みだと思っております。更には、この年祭への歩みの積み重ねが、たすけ道場であり土地処の陽気ぐらしの手本道場として相応しい教会の姿へとご守護頂けるのであります。現代の日本が抱える社会問題として、少子化、



自殺、児童虐待、引きこもり、心の病、多重債務など様々。それらの根幹は家族をはじめとする地域社会や学校、会社などでの人間関係の希薄さが大きな要因として挙げられます。本教の御教えはこれらの問題の根元にアプローチできる教えであり、むしろお道の教えこそが、今もつとも求められている教えであります。その上で、どばの理を戴いた土地処の陽気ぐらし道場である教会のあり方が、現代日本社会の諸問題の解決に不可欠です。

しかしながら、現実には当該の問題に関わる以前に、その問題自体の認識が弱く、関わり方が分からず足踏みしている状態が少なからず見うけられる現状ではないでしょうか。笠岡大教会では、教祖百三十年祭年祭活動スローガンを『「さあ！おたすけ」 祈る・動く・つなぐ』と定め、それぞれの実行目標に、具体的な活動例を掲げて、身近なところからおたすけに取り組めるよう実践に励んでいます。そうした身近なおたすけを実践していく上で、更に悩む人に寄り添い、声を掛けるために、まず本人が抱える問題の内容について理解することが必要だと考えます。

そうした上から、本年の教会長講習会は、私たち教会長が地域における教会の重要性を認識し、個人が抱える諸問題に少しでもアプローチできるように、本講習会を通して知識や技術の習得を進めていきたいと思います。

◎年間行事

1. 立教177年 教会長講習会

テーマ 「地域社会における教会の重要性」

→ 現代のおたすけと教会のあり方

日時 2月26日午後1時30分 受付

2時00分 開講式

27日午前11時00分 閉講式

講義

① 「おさづけ取り次ぎと教祖ご存命」

講師：中山 仁 氏

山名部属名陽分教会所属布教所長

② 「現代のいをいかけ・おたすけの具体例」

講師：郡 川 善 嗣 氏

小南部部属戸来分教会長

③ 「現代のおたすけと教会のあり方」

講師：白木原 嘉 彦 氏

本芝大教会長

(講師名は講義順に記載しています)

・その他、笠岡に繋がる教会の中で、地域社会に根ざした活動を推進している教会の取り組みを発表して頂きます。

・26日は夕食を兼ねた情報交換を予定しています。

対 象 教会長

受講お供 3千円(受付で納めて下さい)

※身上等でやむを得ず欠席の場合は、その理由

を必ず大教会長様に連絡して頂くようお願い致します。

●教会長以外で各講義の聴講を希望する方は、自由に聴講して頂いて結構です。

2. 別席・ひのきしん団参

日時 5月25日(日)

※別席ひのきしん団参を実施して数年が経過します。帰参者の増員はもちろんですが、今年は特に別席者の増員に力を入れて取り組みたいと思います。初席者、中席者のご守護が頂けるよう、各教会で声掛け、働きかけをお願いします。

3. 立教177年 全教一斉ひのきしんデー

期 日 4月29日(火・祝)

※参加への呼びかけを(特に、教会と離れた地域に住まうよふぼくへも、所属教会から積極的な声掛けをお願いします)

4. 立教177年 全教一斉にいをいかけデー

・9月28日(日) 全教会長路傍講演の日

・9月29日(月)・30日(火) 全よふぼく実動日

※9月は布教強調の月です。部内教会を拠点とさせて頂いて、布教部員の布教活動を計画しております。

海外部

いよいよ今年は教祖年祭の2年目の年でありま
す。今現在、アメリカ、台湾、ブラジル、そして
タンザニアに笠岡に繋がるようぼく・信者が生活
をしています。また海外から日本へ移住してい
る人達もいます。

2年後の年祭にそれらの人々に1人でも多くお
ぢばに帰って来て頂き、
共に教祖の年祭を喜び合
いたいと思っています。

その為の下積みを今年
もさせて頂きたいと
思っています。今年は

3月から6月までようぼくの
集いが日本に限らず世界
中で開催されます。開催日
と会場をしっかりと部員

が把握し笠岡の海外に繋
がる人達に、連絡して行き
たいと思います。またそ

れに応じて教内の動
き、笠岡の動きを伝え

て行く文書伝道も変わ
らず続けて行きたいと
思います。



例年の行事も未来に繋がる伝道として続けて行
きます。今年も3月、11月に広島平和公園で海外
からの観光客ににいがけ。夏には海外伝道の後
継者育成として、また国際的な視野・思考を持つ
た者の人材育成の為の英語講習会を開催します。

そして、今年もタンザニア国への衣料救援活動
やおたすけ活動も続けていきます。昨年末に6年
目のタンザニア孤児の為の衣料が送られました。

皆様の心寄せ、ご尽力、有難うございました。今
年も続けて「助け合いの心寄せ」を続けて行きた
いと思います。海外伝道の歩みは遅々たる歩み
微々たる歩みですが、継続をして行きたいと思っ
ています。

管理部

大教会・詰所共、夫々に年限を重ね、あちこち
手を入れなくてはならない時期が来ております。

又、共に敷地が広く、庭木の世話も大変です。
今年も、皆様方の御協力をよろしくお願い致し
ます。

◎年間行事予定

- 草刈り 夏季
- 植木の剪定 10月、11月
- 障子張替え 10月
- 年末大掃除 12月22日

婦人会

新年おめでとうございます。昨年は、婦人会活
動の上にお力添えを賜わり、誠にありがとうございました。

さて、年祭活動二年目に入り、昨年四月総会で
おきかせ頂いた真柱様のお言葉「一人ひとりが常
に成人の上に努力すること、活動方針を実のある
ものにする事」又、会長様の「会員の年祭活動
は、育てるといふ大切な御用を心してつとめさせ
て頂くことを、活動の芯におくこと」とのお言葉
を台に、しっかりとめていきたいと存じます。

更には、委員長さん方には、委員長がおぢば
の理を戴いて仕切って更なる実動をお誓いさせて
頂くべく、本会開催の委員長講習会への参加を、
すすめさせて頂きます。お掲げ頂く成人目標『ひ
ながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう』
に近づくための活動方針(全婦人会員は「恩報じ
の道を邁進しよう 一、教えを実践して実のよう
ぼくに育つ 一、身近な人を実のようぼくに育て
る」の実行を促がしていきたいと思えます。本年
もどうぞよろしくお願い申し上げます。

婦人会笠岡支部長 上原 きよ代

青年会

立教177年も青年会本部のスローガン、『たすけの渦を巻き起こそう』の下、教祖130年祭に向かって、活動を推進していきます。

また、笠岡分会の年祭への心定め『一日一つにをいがけ。全会員500名の実働』の完遂に向けて、ひとりでも多くの会員に声をかけ、共におたすけに向かうきつかけ作りができるよう、日々コツコツと勤めてまいります。昨年1年間で全体の3分の1の会員さんに声をかけましたが、これからがスタートだと思っておりますので、皆様方にもご協力頂きますよう、宜しくお願いいたします。

日々の実践目標を印したビンゴカードとボールペン(各ブロックの委員が持っています)を渡したら人数をカウントいたします。

続いて今年60周年を迎える、『おやさどふしん青年会ひのきしん隊』(6月入隊)においては、20名の入隊者を目標としております。年祭活動真っ只中の旬に、おちばで真実の種を蒔かせていただきますしよう。

その他の行事も活発に進めていく所存です。皆様には、動員面での声かけをどうぞ宜しくお願いいたします。必ずこの旬に大きな実を結びます。

少年会

少年会活動の目的は子供たちに信仰の喜びを伝え、将来、立派なようぼくになるための基礎づくりをすることであり、縁あってこの道へ引き寄せて頂いた信仰の子弟を、しっかりとようぼくへ育てていく縦の伝道にあります。

また、いまだこの道知らない子供たちに陽気ぐらしの教えを伝え、子供たちを親神様・教祖とつないであげるのも、少年会の大切な活動です。様々な機会を通して、子供たちをしっかりと教会へつなぎ信仰を伝えさせて頂きたいと思えます。

本年も少年会活動の上にご尽力の程、よろしくお願いいたします◎

★——立教177年 笠岡団 年間行事 ——★

- ・おつとめ総会……………4月1日
- ・鼓笛合宿……………3月30日～4月1日
- ・縦の伝道講習会……………5月21日
- ・サマーキャンプ……………8月22日～24日
- ・テッチャンと遊ぼう(わかぎのついで)……………8月28日
- ・テッチャンシアター(教会参拝の推進行事)……………3月・7月・8月・9月・12月の大教会月次祭後

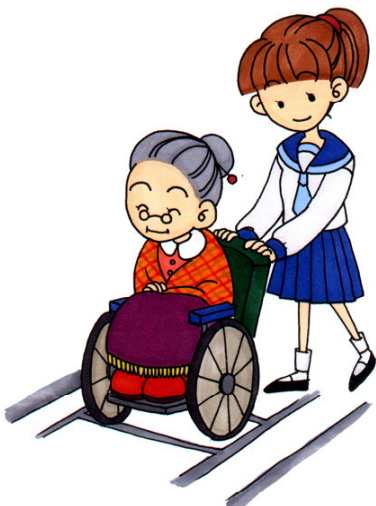
学生担当委員会

立教177年 学生担当委員会 活動方針
基本方針

「おたすけの喜びを学生に！」
～あらしきとつりよう・みちのだいとして
共に育とう～

教祖百三十年祭に向かう三年千日の今、全ようぼくのおたすけの実践が促されています。

この時旬に、道に引き寄せられたすべての学生が、おちばに帰り、教会につながって、信仰の喜びとともにおたすけの喜びを味わえるように導き、別席を運んでようぼくとしておさづけを取り次ぐまでに丹精していくことが求められています。



第875期修養科募集要項

*修養科期間

立教177年3月1日～5月27日

*教 養 掛

3ヶ月間 今 川 昌 彦 (大教会役員・金 浦 分教会長)
 1ヶ月目 武 内 清 和 (香地華分教会長)
 2ヶ月目 仙 田 勉 (出雲川津分教会長)
 3ヶ月目 藤 井 治 喜 (福 節 分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日午前10時に解散。

*教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』。

*参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
大教会 御供	○		
「住民票」		○	



質疑に真剣に答える講師

よふぼく勉強会開催

テーマは「徳積み」

12月月次祭後

育成部

育成部(吉岡壽部長)では12月21日、大教会12月月次祭後、会議室で「徳積み」をテーマによふぼく勉強会を開催、15人が参加した。今回のテーマ

について中村剛講師は、自らの体験を通して懇切に講話された。

引き続き同テーマについての質疑応答もあり有意義に終講した。

次の勉強会は3月月次祭後、テーマは「教祖のお話し」、講師は大教会奥様。

第5回「テッチャン

シアター」開催

12・21 祭典後 少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)は12月21日、大教会月次祭祭典後、神殿で「テッチャンシアター」を開催、育成会員を含む約90人が参加した。

「家族揃って大教会月次祭参拝」の推進を目的に本年度から始めて5回目。子供達に大教会参拝の良い思い出を残してもらいたいという思いから始まったこの会は、後にユーモア溢れる担当者の名前をもらって親しみやすいように「テッチャンシアター」と名をつけて活動してきた。ゲーム・紙芝居・お話・アートバルーンなど、当番委員が趣向を凝らして子供達を信仰の入り口へ案内する企画。

今後更に、子供たちの好感度を上げるために正



2013/12/21

神様のお話 (福富士分教会長・藤井正仁)

式なキャラクターを作ることになり、26年度には着ぐるみの『テッチャン』が出来上がる予定。

大教会少年会は、次代につながるよふぼくの子供達を精一杯導かせて頂きますので、今後とも少年会活動の上にご協力下さいますようお願い申し上げます。(少年会副団長 藤井正仁)



一手一つの大掃除

大教会年末大掃除
12・22 大教会

管理部(武内清明部長)では、12月22日午前9時から恒例の大教会年末大掃除を行い、大教会長様をはじめ、役員、教会長、婦人会、青年会、少年会など含め98人が参加した。

午前9時の開始前から準備は進められ、大教会長様の手に合わせて三殿礼拝後は毎年の受け持ち場所に分かれてのひのきしんとなった。

当日は日曜日という事もあり、普段出て来られない人達も参加して下さり渡り廊下の窓拭き、天井のすす払いなど例年には手の届かないところも隅々まで掃除をした。

神殿では長梯子を使つての危険な作業にも慎重に行い、中段・参拝場にはいつもの様にビデを三段に組み、埃を払った後に拭き取るなど高所にも関わらずみんなの一手一つの掛け声とともに怪我なく順調に進められた。

婦人会は、神殿内や信者室などの雑巾の仕分けの段取りや食堂ひのきしんなど女性ならではの目線でひのきしんを行った。

**陶山分教会
八代会長就任奉告祭 執行**

陶山分教会(上原繁次会長)では、昨年12月15日、大教会長様ご夫妻、吉岡壽・上原志郎両役員を迎えて、八代会長就任奉告祭を執り行った。

大教会長様が、陶山分教会六代会長を勤められていたことから、六・七・八代の会長夫妻が揃って



勤めた奉告祭となった。

温故知新

いきいきエピソード 32

事歴はしのび詞

私事で申し訳ないが、昨年十一月二十六日のお運びで陶山分教会の会長を嗣子・繁次に渡させて頂いた。私は十二月一日から大教会内勤役員として勤めさせて頂いている。思えば、道友社を辞退させて頂いて大教会内勤とさせて頂いたのが、昭和五十一年の事である。四月から布教の家広島寮に入寮させて頂いた。「かさおか」の編集主任をご命頂いていたので、広島寮で編集を行い、教務支庁と道を挟んで向かい側の中本本店印刷に印刷して頂いて、十九日あるいは二十日に刷り上がりを持って大教会に帰らせて頂いた。汽車賃がないときには自転車におつとめ着と刷り上がりを荷台に乗せて帰った事もあった。

翌年、広島寮を卒え、大教会に住み込んだが、雨霰のように仕事を申し付けられた。別席の取次、月次祭祭典の役割当、役員諸氏の出直しに伴うしのび詞及び告別詞作成、時に大教会月次

祭詞作成、。私は大教会史の編纂、「かさおか」編集にも携わっていたので、よく潰れなかったなど、今思う。

あれから三十年、改めて内勤の生活を始めてずいぶん変わったと毎日、感無量である。

さて、三代会長の事を書いてきて、今回、一月三十日に三代会長三十年、三代夫人二十年、四代二十年の年祭を勤めるにあたり、祭詞を書かせて頂きながら、事歴はしのび詞をみれば一番いいか、と思つた次第である。それで、三代会長のしのび詞を見て、此の項を終えようと思う。

三代会長追悼号から。齋主・真柱様 副齋主・村田雄三先生。

しのび詞 言巻くも忌忌しき本部員上原繁雄 主の御柩の前に副齋主村田雄三慎み敬いて現世の永き別れを告げ奉るに当たり 汝主の一世の程に立て給い 遺し給える御功績の概略を言挙げ讃えてしのび詞告し奉らくを聞食せと白す そも汝主は 明治二十七年九月二十日宮田善蔵 主サト刀自の五男として大阪市東区塩町の地に生れ出で給い 直く正しき御性のままにいと 健やかに生い立ち坐して 明治三十二年四月新 町幼稚園に入り 明治四十年四月大阪西区第四

高等小学校を卒え 更に明治四十五年天理中学校を卒えられては学びの業広く深く修め 又同じ年の三月二十一日尊きおさづけの理を戴かれ 大正三年十月十日教人の列に与だされて救け一條の道のようにぼくとして成人の道に恪勤し励み 給いぬ 又大正四年五月十六日奇しき縁のまに まに上原家に入婿と迎えられくに多の君と婚姻いて妹背の中いと美しく御子達九人を挙げ儲けて 家内は常春の長閑けく転々楽しく家内高く榮え坐して 人皆より世の福人と仰ぎ慕われ 坐しぬ 更には大正五年一月には笠岡分教会承事として 企じく九年には理事として教会進展に心を尽くし また大正十年六月二日笠岡分教会三代会長の理を許されては名称の理の長として 広く普く教子達を教え導き 更に同じ年芦津 大教会役員 青年会笠岡支会長 また岡山教区主事として西に東に親神の思召を伝え人々を教え導き給いて名称の理の榮に努め勞つき坐しぬ 斯くて昭和十年四月二十日笠岡中教会の理を許され 同じく十四年三月には台湾伝道庁長として 遠く海外の地に赴きて海外伝道進展の重き勤めに勞き給いぬ

更には昭和十五年二月十日笠岡の名称の理の大 教会昇格の理を許され 同じ年四月十八日本部

教会おとまり会の報告

▼鶴山隊

実施日 25年12月6日(金)〜7日(土)

1泊2日

参加者数 少年会員3人 育成会員3人

合計6人

内容 朝づとめ・夕づとめ・お風呂・食事・児童公園で遊ぶ

准員に登げ用いられ 元つちばの重しき務めに戦時体制の厳しき中も撓ゆむ事なく勇み心の一筋に働き給いぬ 斯くて終戦と共に復元の旬を迎えては 和歌山教区長として 又和歌山県分教会主管者として和歌山の地に赴き給いて教会名称の修理丹精に真心の限りを尽くし給いき更には又昭和二十一年神殿おたすけ掛として又都大教会世話人として 同じく昭和二十四年には別席取次人に登げられては 親神の御教えを宣傳へ伝え人々を扶け導き給いぬ (この項続く)
(前史料部長)



立教百七十六年 十二月月次祭 祭典役割表

役割		区分	祭主		講話
おとめ	てをどり		祭主	扈者	
吉岡 剛	今川 彦	坐り勤	大教会長様	佐藤道孝	
中村 昌	虫立 生	前半	中島誠治	上原志郎	
岡崎 和夫	中島 誠	後半	山野弘実	吉岡 壽	
岡崎 治	中島 治		指図方	東井光則先生	
門脇 繁	三島 渉		賛者		
大教会奥様	佐藤 香苗		指図方		
上原 繁	森本 富美子		指図方		
岡本 久善	門脇 加津		指図方		
大教会奥様	門脇 郁子		指図方		
門脇 郁子	高木 昭祥		指図方		
菅尾 正治	岡崎 輝彦		指図方		
森本 忠平	横山 逸郎		指図方		
谷内 伸自	吉岡 誠一郎		指図方		
河原 節喜	上原 浩		指図方		
中村 道徳	赤木 素志		指図方		
虫明 好美	内海 安子		指図方		
上原 順子	谷内 美知子		指図方		
今川 佐智子	菅尾 一美		指図方		

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから」と子供かわいい一条の親心一杯に御守護下さり 陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 教祖に世界だすけの先達としてお引き寄せ頂きました私共は 陽気ぐらし建設の用木との自覚の元 教祖百三十年祭に向け三年千日と仕切つての歩み出しの年として 一年目の成人目標をかかげよふぼくとしての一層の成人を目指して 日々朝夕に御礼申し上げます 一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも月日は過ぎ行き 本日は早くも本年納めの月次祭をつとめる日柄となりました 改めて本年一年を振り返り 至らぬ点は来年に生かすべくしつかりと反省した上で 本年賜りました御守護の数々に改めて御礼申し上げます 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には寒さ厳しき折り又年末の慌ただしさをも厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が二万五千二百三十五枚のおたすけお願いカードに込められたたすけ心と共に同じ思いに伏し拝み 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が改まれば年祭活動二年目でございます この度の年祭活動は一年目より二年目 二年目より三年目と三段階の成人を目指しておりますので 成人目標も一年目に二年目分を加えて 本年より一段階上の成人の歩みを進めて行く所存でございます 又よふぼく信者の一手一つの姿にして行く為に 自分一人成人出来たら良いのではなく 一人でも多くの人に声掛け 共に成人の歩みを進めて行く事を念頭において勤めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には本年残されたあと十日 精一杯にたすけ一条に勤め切り 新たな年の心定めを添えてより一層の成人をお誓い申し上げます 皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護と喜びと感謝の心に満ち溢れた年末年始の御守護を賜りますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので 転載させて頂きます。 おめでとうございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽1月1日付「新春歌壇」

・芦分分教会教人 金谷眞佐代さん

あまたなる修学旅行の生徒来て

平和を願う歌声ひびく

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

初春のペガサスの星に願いたり

自然災害無き佳き年を

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

雪つもる静かな夜明けこの地球に

天災諍い^{いさか}どうかなき世に

▼養徳社発行『陽気』誌一月号、「道柳」より転載。今回の課題は「新」。

▽佳 詠

・川島郷分教会前会長 香取敏子さん

身上得て新人生の意気に燃え

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

生かされて心新たに今日一日

・芦分分教会教人 金谷眞佐代さん

新春に心定めて歩みだし

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

大教会だより

◎直属ひのきしん特別隊

自 立教177年1月11日
 至 立教177年1月20日
 瑞雲 豊田 俊美

◎立教177年春季大祭参拜

吸江	東悠	海松ヶ岡	呉照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
上原	河原	佐藤	上原	大教会	岡本	大教会	中村	佐藤	中村	吉岡	大教会	佐藤	中村	大教会	岡本	吉岡	上原
道繁	原繁	節道	孝道	繁道	奥様	善様	剛	孝	義	壽	孝	義	義	善	久	繁	道

計報

西村道榮姉

瑞雲分教会前会長
 十二月十三日出直されました。
 享年 九十二才

照陽	輝美	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山	新山
中村	河原	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本	岡本
剛喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜	善喜



あれから一年、その時の事を改めて思い起こしてペンを執りました。一昨年の十二月七日午後四時十六分、J中学校前の横断歩道上で飛び出して来た中学生の生徒と正面衝突！フロントガラスが真っ白にガラスの破片がパラパラと目の前に落ちてきて、その瞬間「殺した！」血の海だと思い、すぐむ身体と心を跳ね除け外へ・・・

あれ？三、四m先にその子は倒れていて、駆け寄ると「おじさん、すみません僕飛び出して」と！血も出ておらず、生きてた！とビックリ・すぐ119番・続いて110番へ連絡交通誘導しながら到着を待ちその後現場検証、幸いにも目撃した方が証言して下さり、午後七時過ぎ警察署へ、そこで搬送先の病院に連絡してもらおうと、「打ち身だけで検査結果に異状が無いので帰ってもらいましたよ」との事、

われ来てくれたその子と二人、コッテリ叱られました。夜九時過ぎ帰宅、十一時半過ぎに床に入ると布団に身を包まれ眠れる事の有り難さをつくづく感じました。その後すべて保険対応で事無き得て減点五点のみでこの大節を済ませて頂きました。今は亡き父が口癖のように「一生懸命通つていけば神様がいざと言う時に毛抜き合わせのご守護を下さる。」と話していました、まさに間一髪毛抜き合わせのタイミングでお連れ通り頂きました。その時以降不思議とあの時無い運命だったと思え「いずむ」とか「くさる」とかという思いがわなくなり、昨年一年間生かされている不思議の中で通らせて頂く事が出来ました。「説得するのが一番難しいのは、ウソのつけない自分自身である。」(BY・孫正義)と言う言葉があります。腹の底からお陰様だった。と思える事が有り難いことでした。世間の人の中には運が悪かったね！と言う方もありますが、この事により厳しき現況の中でも心明るく通れた不思議な一年でした。ありがたい・幸せだと日々歩いた人の後ろに幸せな道ができる信じたい！

(と)